

【日程】

- 7月19日(金) マイケル・コンウェイ
20日(土) 「念仏の謂れを聞き開く」
- 29日(月) 西山 郷光
「浄土真宗～衆生のための仏教～」
- 30日(火) ジェシー・釈萌海
「悲しみをご縁として出逢う世界」
- 8月19日(月) 白木澤 琴
「念仏申して生きた人々」
- 20日(火) 児玉 真美
「安楽死が合法の国で起こっていること
～不安の時代にいのちと尊厳を考える～」
- 29日(木) 瓜生 崇
「謹んで浄土真宗を案ずるに、二種の回向有り」
- 30日(金) 木越 康
「浄土の真宗は証道今盛なり」

主催：真宗大谷派金沢仏教青年連盟「聞」実行委員会

協賛：真宗大谷派金沢教区・金沢東別院 [問い合わせ]金沢教務所 076-265-5191

第60回 聞 夏季公開 仏教講座



講座時間
18:30～20:30

聴講券
全8講座(通し券)3,000円
一日券:1,000円

開催日
7月/8月
19日・20日・29日30日

会場[金沢市安江町15-52]
・金沢東別院本堂
・金沢真宗会館

*聴講券は開催中も受付にてお買い求めいただけます
*聴講券は金沢教務所、金沢別院にて取り扱っています

講師紹介

7月19日(金) 20日(土)

マイケル・コンウェイ

大谷大学准教授



学生時代、カトリックの御家庭で生まれ育ったマイケル先生に、どのように浄土真宗と出遇われたのかお尋ねしたことがあります。先生からは、アメリカにある仏教会を訪れた際に、高潔そうな老僧の写真が飾ってあり、それに感心していたところ、その老僧は「自分ほど邪悪な者はいない」と言っていたことにさらに驚き、それが浄土真宗との出遇いだったと教えていただきました。ちなみにその老僧は暁鳥敏師だったそうです。

今回は二夜続けてお話をいただきます。皆さんとぜひ聴聞の場をつくっていききたいものです。

7月29日(月)

にしやま さとみつ
西山 郷光

西勝寺住職
山教区駐在教導



先生は、長年駐在教導としてご活躍され、2023年5月28日に住職に就任されました。

就任前の年5月5日に発生した奥能登地震で西勝寺（石川県珠洲市）には大きな被害がありました。それでも前向きに新住職として「お寺を再建する」と言われていたのが印象に残っています。そして、2024年1月1日に発生した能登半島地震では、西勝寺の本堂が倒壊して煙を巻き上げる様子がテレビで何度も放送されていました。

震災後、氏は「庫裡で比較的無事だった部分に仮本堂を設けて寺で法務を行える体制を整えたい」（『三条別院のご案内』2024年3月号）とおっしゃっています。

先生のお話を通して、今の自分を問い直す機会となればと思います。

7月30日(火)

しゃくほうかい
ジェシー 釈萌海

真宗大谷派僧侶
スイス出身



先生は母の安楽死による心の落ち込みから「命は誰のものか」の問いを頂き、「今のちがあなたを生きている」という真宗大谷派の標語に出遇われたそうです。先生から今回の御依頼にあたり、このような言葉を頂きました。

「人生の価値、老いていくことについて、考えなければなりません。（中略）生まれた意義と生きる喜びを見つめよう、という親鸞の呼びかけに、今私たち一人一人が応えていかなければならないのではないのでしょうか。」

安楽死についての議論は日本でも始まっておりませんが、安易な議論の展開は安楽死を人生の正解としかねない怖さを感じます。安楽死が合法の国に生まれ育った先生と、私たちが本当に向き合わなければいけないものはなんなのか、尋ねていきたいと思ひます。

8月19日(月)

しらぎざわ こと
白木澤 琴

宮城県 玉蓮寺坊守



白木澤先生とは大学院の同期で、専攻は違いましたが、それぞれの立場から親鸞やお寺のことなどを語り合い、沢山の思い出があります。

2011年におこった東日本大震災の翌年から、地元で活発に活動される先生をお寺の永代経にお招きし、ご法話をいただいております。先生のお話しのなかで、宮城県を含む東北地方では真宗寺院が歴史的に少なく、その中でお念仏が伝統されてきたことの大切さを教えていただきました。真宗寺院の多い金沢で生まれ育ち、「ナンマンダブツ」に耳慣れた私ですが、しっかりとお念仏を受けとっているのか、先生のお話をとおして確認したいです。ご一緒に聴聞いたしましょう。

8月20日(火)

こだま まみ
児玉 真美

一般社団法人
日本ケアラ一連盟代表理事



今回の講義では、安楽死に関する実際に起きている様々な出来事や、人間の尊厳と死の自己決定権についての考察を軸にお話を頂きます。少子高齢化による医療・介護の問題、そして増税と人手不足が加速する昨今、安楽死についての話題を以前より耳にすることが増えました。安楽死という名の社会や個人による命の線引きについて、一度実態を確かめて考えてみたいと思ひます。

〔著書〕

『私は私らしい障害児の親でいい』

(ぶどう社)

『死の自己決定権のゆくえ—尊厳死・「無益な治療」論・臓器移植』 (大月書店)

8月29日(木)

うりう たかし
瓜生 崇

玄照寺住職
元浄土真宗親鸞会講師



日本脱カルト協会の会員として被害者の脱会支援や、webサイト「浄土真宗の法話案内」の運営、昨年開講された「親鸞仏教学舎」の講師も勤められるなど、精力的な活動をされています。昨年に引き続き今年もお招きすることができました。近年取り沙汰される統一教会や宗教2世の問題など、社会と宗教の関わりが問題となっていますが、これは単なる社会問題ではなく、私たちの信そのものを問うている問題だと思います。常に信と向き合っておられる先生のお話を頂くことを、今年も楽しみにしております。

8月30日(金)

きごし やすし
木越 康

元大谷大学長
カリフォルニア出身



以前、夏季公開仏教講座「聞」において、先生は清沢満之の言葉から「倫理的な気持ちや行動を生む『共苦』と宗教的な救済を求めらるきっかけとなる『罪悪感』という二つの感情のエネルギーに華を咲かせ、人間は生きていかなければならないのではないか。」とおっしゃってありました。

能登半島地震により、多くの方が被害にあわれ、今なお苦しい状況が続いております。皆が苦しみを共にしている今、真宗の教えとどう向き合い、その上でどう生きていくのか。先生のお話を通して、今一度皆様と確かめさせて頂ければと思ひます。